

# 沿岸漁場開発調査（４） （マアナゴ調査）

森脇晋平

## はじめに

島根県沿岸から沖合に至る陸棚海域におけるマアナゴ資源生態について調査を継続実施してきたが、前年度までに分布生態、漁況の季節変動などを明らかにした。ここでは、小型底曳船の休漁期間の企業化試験を民間船により実施した結果を報告する。

## 調査方法

浜田漁港を基地とする小型底曳網漁船 1 隻にマアナゴ籠漁業の操業を委託し、その操業記録を整理した。記録は操業位置、操業日時、漁獲尾数、ならびに水揚金額および所要経費（燃料費、餌代、箱代）である。

## 結 果

結果は表 1 のとおりである。

表 1 アナゴ籠操業結果

期日	操業日数	漁獲尾数	水揚金額 (千円)	所 要 経 費 (千円)				粗 収 入 (千円)
				燃料費	餌 代	箱 代	計	
1983.6.	12	8,006	1152.6	86.3	40.1	25.8	155.2	997.4
7.	7	4,582	558.6	55.0	28.5	14.8	98.3	460.3
8.	4	975	152.0	34.6	21.0	14.5	70.1	81.9
合 計	23	13,563	1863.2	175.9	89.6	55.1	323.6	1539.6
<hr/>								
1984.6.	7	1,542	213.2	97.1	11.4	8.6	117.1	96.1
7.	16	8,885	1100.9	240.0	69.0	45.0	354.0	764.9
8.	8	4,320	518.3	120.0	32.0	22.4	174.4	343.9
合 計	31	14,747	1850.4	457.1	112.4	76.0	645.5	1204.9

# 地域性重要水産資源管理技術開発総合研究 (トビウオ類資源共同研究)

森脇晋平・高橋伊武・由木雄一

## 1. 目 的

前年度に引き続き、鳥根県沿岸の重要魚種であるトビウオ類の資源診断、漁況予報の確立および資源の有効利用を図ることを目的として調査を実施した。なお、この調査は昭和61年度から水産庁の特定研究開発促進事業(国庫補助)として、.3県(鳥根県・鳥取県・兵庫県)共同で実施しているものである。

## 2. 方 法

### (1) 漁業実態調査

漁獲量、漁獲努力量を把握するため、県下の主要漁港である浜田・仁摩・野波漁協について調査を実施した。

### (2) 生活様式解明のための調査

1) トビウオ類の生物学的知見を得るため、浜田漁港の水揚物及び試験操業の漁獲物について、漁期中、体長、体重、生殖腺等を多項目測定を実施した。

2) 回遊路を解明するため、調査船で漁獲したものについて標識放流を実施した。標識はアンカータグを使用した。

### (3) 漁場形成機構に関する調査

#### 1) 標本船による操業状況調査

漁場の実態を把握するため、代表港である浜田・仁摩・大社漁協に標本船を依頼した。

#### 2) 漁場環境調査

漁場環境を把握するため、浜田沖で海洋観測を実施した。

## 3) 結 果

本年は調査の2年度に当たるため、鳥根へ兵庫3県共同研究の報告書として別途報告した。

報告誌名：日本海西部沿岸に生息するトビウオ類に関する共同報告書 第1号 1988年3月